

### 第3学1組 家庭科学習指導案

1 単元名 「幼児の心の発達について考えよう」(幼児の生活と家族)

2 本時 平成30年 6月 8日(金) 第2校時 3年1組教室において

3 本時の指導観

前時までに生徒は、幼児の体の発達について乳児期から幼児期の体の成長の様子を赤ちゃん人形やDVDを活用して学習している。本時では、幼児の心の発達について幼児は家族との信頼関係を基盤とした周囲の人々とのかわりの中で育てていくことを、言葉かけを通して理解させることをねらいとしている。そのために、導入では赤ちゃん人形を使い、泣いている場面を考えさせ赤ちゃんの心の状態を知り、次に幼児の心の発達をイメージさせる。ここでは幼児期は人格形成の基礎を築く大切な時期であることを伝える。さらに、「あなたが親だったらこんな時どうする。」吹き出しを見せながら、即座な対応が迫られた時の幼児への言葉かけについて考える事を伝える。失敗した場面の言葉かけ・自我が芽生える時期の対応・公共の場における対応について幼児の気持ちを考え、ほめたり注意を促したりする言葉かけを考えさせる。

4 主眼

○ 幼児の気持ちに共感しながら、ほめたり、注意を促したりすることができるようになる。

5 ウエッピングマップを使い幼児の心の様子を想像し、幼児への言葉かけを考える場面においてステップチャートを用い言葉かけの理解を深める。

6 準備 教科書、学習プリント、赤ちゃん人形、フラッシュカード、DVD

本時の展開

段階	学習活動・学習内容	具体的な支援	評価の観点(方法)
	<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて：幼児の心の発達について考えよう。</div> <p>2 幼児の心の発達段階を考える。</p> <p>(1) 幼児のイメージをマップに記入する。</p> <p>(2) 幼児期は、情緒・社会性・言葉の発達し、人格形成の基礎を築く大切な時期であることを知る。</p> <p>3 幼児の心が育つ言葉かけを考える。</p> <p>(1) 包丁でキュウリを切る場面</p> <p>(2) 幼児が失敗した場面の言葉かけ</p> <p>(3) 砂山を壊した幼児への対応</p> <p>(4) 公共の場面でだだをこねる幼児への対応</p> <p>4 まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">まとめ：幼児のトラブルの改善策を考えることで、幼児の気持ちを考えて伝え方を工夫するなど幼児を思いやる心や生活をよりよくしていこうとする関心を高めることができる。</div>	<p>○赤ちゃん人形を見せて赤ちゃんが泣いていたらなぜ泣いているのか考えさせる。</p> <p>○幼児の心の発達段階についてのイメージをつかむために、マップに記入させる。</p> <p>○幼児への言葉かけが、幼児の心の発達に大きく関わることを押さえ幼児を保護する立場で考えるように助言する。</p> <p>○幼児への言葉かけを考える手だてとして、ステップチャートを使い考えを深めさせる。</p> <p>○幼児にできないことは多くあるが、励ますことで意欲や自信を持つことができることを知らせる。</p> <p>○言葉が十分に発達していない幼児とコミュニケーションをとる時に大切なことを考えて発表させる。</p> <p>○幼児の気持ちと行動の問題点を明らかにし、気持ちに共感しながら注意を促す言葉を考えるように助言する。</p>	<p>・幼児が意欲を持つような関わり方を考えようとしている。(学習プリント)</p> <p>・幼児の発達に応じた言葉かけを考えようとしている。(学習プリント)</p> <p>・友達の記事に関心を示し、自分の実践に生かそうとしている。(学習プリント)</p>

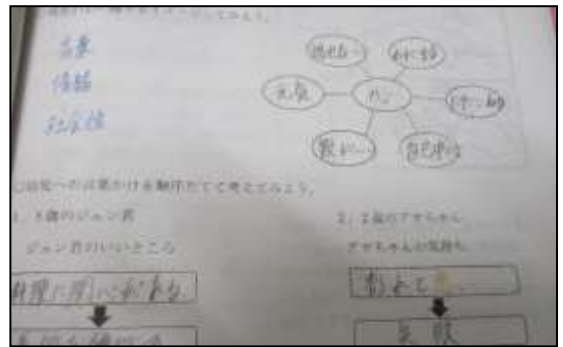
## 【授業の実際】

### ◎つかむ段階について（既習事項とのズレ・隔たりから内面に生じた問い・課題を設定する場面）

生徒は2学期に「幼児ふれあい体験」の実施に向けて、はじめに家庭や家族の機能、家庭生活と地域との関わりを知り、中学生として自分にできることを考える学習をしてきた。次に幼児の発達と生活、家族の役割や遊びについて学び、「ふれあい体験」の準備をすすめる。前時では、乳児や幼児の体の発達について学習してきた。乳幼児に触れる機会がない生徒にとっては、乳幼児の体の大きさや発達段階についてイメージすることが難しいし、また乳幼児に興味関心の度合いにも大きく影響する。新生児から幼児になる1年間での成長が著しいことや幼児期に段階的に発達していく様子から内面の心の発達も同様であることを投げかけて本時のめあてを設定した。

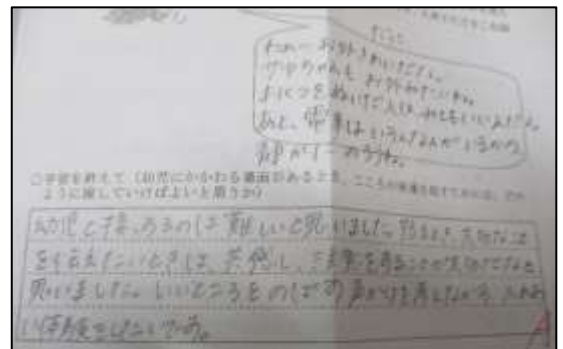
### ○さぐる～深める段階について（思考ツールを活用して自己内対話をする場面）

幼児への言葉かけに適する内容を考えるに前に、幼児へのイメージについてウェイビングマップを使って考えてみた。幼児への連想はなかなか出来なかったが、一つのワードを取り込むと広げることができた。ウェイビングマップは様々な視点から考える手だてとなった。幼児の心が育つ言葉かけを考えるにあたり、幼児期は、情緒・社会性・言葉の発達を築く大切な時期であることを知らせ、幼児への言葉かけが、幼児の心の発達に大きく関わることを押さえた。次に3つの場面での幼児への言葉かけを考える手だてとして、ステップチャートを使い幼児への理解を深めさせた。段階的にステップチャートをすすめていくなかで幼児へのイメージは出来てきたようである。



### ○まとめる段階について（自分の言葉でまとめる場面）

ステップチャートで幼児へのイメージを考えたところで3つの場面を想定する。ここではそれぞれ幼児にはできないことが多くあることを知らせる。そこで言葉かけのポイントは励ますことや否定しないことであることを伝える。このことは、幼児への心に意欲や自信を持つことができる大切なことであると押さえる。次に言葉が十分



に発達していない幼児とのコミュニケーションをとる時に大切なことをイメージさせる。最後にそれぞれの場面の幼児の気持ちと問題点を明らかにし、気持ちに共感しながら注意を促す言葉を考えさせた。ここでは幼児へのイメージが出来たとしても、幼児に理解させる言葉が思いつかないところ考え込んでしまっている生徒が多く見られた。

## 【授業の考察】

幼児についての関心は生徒によって異なるが、「幼児ふれあい体験」を楽しみにしている生徒はほとんどである。幼児について少しでも関心を高め、幼児への理解を高める題材として今回の言葉かけは実践的要素であると考えた。ステップチャートやステップチャートを用いて幼児をイメージすることはできたが、幼児に理解させる言葉かけの言葉に考えが浮かぶ生徒と浮かびにくい生徒と分かれていた。幼児の気持ちに共感することをポイントとして押さえ考え、言葉がイメージできた生徒の発表を聞くことで徐々に幼児への関心ができてきたようだ。言葉がなかなか浮かばなかった生徒は、この題材を通して「ふれあい体験」と結びつけて、幼児への関心や理解を深めていこうと考えていた。

## 【成果と課題】（授業整理会およびチェックシートから明らかになったこと）

- （成果）☆幼児について考える上で思考ツールは手だてとして、幼児のイメージが出来たことは効果的であった。「ふれあい体験」に向けて実践的な関わりかたを考えるには深まりができた。
- （課題）★身近に幼児にふれる環境にない生徒にとってイメージさせるだけでは、理解できない部分が見られた。実際の場面の画像はなくても、幼児の様子がわかるモデルの画像があったらより理解が深まる。